

## パリ市における市民参加型予算

パブリックコンサルティング第一事業部 主任研究員 山口 まみ

### はじめに

市民参加型予算（以下「参加型予算」）とは、市民を予算編成に参加させる仕組みで、官民協働ガバナンスのいわば核心とも言える。ブラジルのポルトアレグレ市で1989年に始まり、世界各地に広がった。当時、同市では議会制民主主義が十分に機能せず、行政も十分なサービスを提供出来ず機能不全状態にあったが、参加型予算により効率的で効果的な支出を可能にし、社会的な公正を向上させ、低所得層やスラムの住民などを中心に公共サービスの提供がなされた。予算決定の過程が透明になることで、汚職の発生も抑制された。

ここでは、2014年から始まったフランス・パリ市における市民参加型予算について概観する。

### Madame la Maire, j'ai une idée! —市長、提案があります！—

伝統的に行政が公共サービス等の提供を担っていたフランスであるが、2001年に左派政権に交代して以来のパリ市は、市民との協議や意見聴取、市政に関するレポートの提供等を通じて、市民の市政への参加を促している。そこに、2014年3月に就任したパリ初の女性市長アンヌ・イダルゴにより新たな後押しがなされた。曰く「私は、誰よりもこの都市を良く知っているパリっ子に対して最大の信頼を抱いています。私は彼らにパリの未来を形作り、発展させる手助けをして欲しいのです」。アンヌ・イダルゴは、市民の市政への参加は、民主主義における課題の一つであり、社会的団結を保証するものであると位置付け、市政参加支援強化のため市は投資予算の一部用途に関して市民の要望を受け付けると宣言したのである。

こうして Web 上に開設されたのが、デジタルプラットフォーム“Madame la Maire, j'ai une idée!”（市長、提案があります！）である。これは市民（個人や団体）からの集合知によるアイデア提案や公開討議のために設置された新しいプラットフォームで、オンライン上への容易

なアクセスを通じて市民が市に対してプロジェクト提案が出来るというものである。

様々な市民からの提案に対して、市民は Web 上で賛同表明や、コメント、修正示唆等によるブラッシュアップ等を行うことが出来る。個別のアイデアに対して、市からのリアクションが記述される場合もある。

これまでに、例えば 2024 年のオリンピック大会に向けたスポーツや公共空間の改善、セーヌ川のほとりの改善等、様々なキャンペーンが実施され、それらについて市民から多くの提案がなされてきた。

図表 1 Madame la Maire, j'ai une idée!



出典：https://idee.paris.fr/ に加筆

### 参加型予算（budget participatif）の概要と決定プロセス

#### （1）参加型予算の概要

このプロセスにおいて、最重要の位置付けとされるのが「参加型予算（budget participatif）」である。

パリ市の年間予算額は約 80 億€である。うち 82%が職員賃金、サービス購入、社団への助成金等、行政運営上必要な「運営予算」、18%が道路や公園等公共施設の建設・改装、設備整備、学校・美術館等の備品購入等の「投

資予算」と分類される。この「投資予算」の5%が参加型予算として充当される。参加型予算 2014～2020 年の総額は約 5 億€となっている。

下記の 2 つに大分される。

- ①パリ全域への投資（パリ市のみが出資）
- ②パリ市内の 20 の区への投資（区が 1€を拠出する毎にパリ市も 1€を拠出するマッチング型）。各区は参加型予算に充当する額を毎年決めることができる（上限あり）。

2015 年の市の参加型予算は約 7,500 万€で、①が約 3,730 万€、②が約 3,770 万€であった。

## （2）参加型予算採択のプロセス

前述のプラットフォームで市民がプロジェクトを提案する。年齢・国籍を問わず全てのパリ市民がアイデアを提案することが可能である。

参加型予算のプロジェクトには 3 つの要件がある。

- ①公益目的であること（パリ市民の一般的関心事であること）
- ②市の権限内の事業であること
- ③費目が「投資予算」の範疇であること（公共空間あるいは市の施設に対して投資されること）

2015 年のプロジェクト募集の際には、ミツバチの巣箱設置 12,000€、広場整備 600€/m<sup>2</sup>、図書館リニューアル 840～2,100€/m<sup>2</sup>、Wi-Fi スポット設置 2,300€等が例示されている。

2015 年は、公募期間中、毎週水・金にプロジェクトの共同構築のための集会・イベント（“Agora”）が開催され、市民はコーヒーを飲みながら参加型予算について話し合ったり、アイデアを提案したり、プロジェクト文書の推敲を受けることが出来た。市の職員も参加し、市民からの質問への回答等プロジェクト立案支援を行った。

2015 年は、18,954 人のパリ市民から 5,115 件の提案があった。2014 年度はパリ市自らが提案したプロジェクトもあったが、市民からの提案のクオリティを鑑みて 2015 年は市からの提案はなかったという。

提案されたプロジェクトについて、パリ市が要件に照らして妥当性評価を行い、妥当であるとされたプロジェクトが市民投票に付される。2015 年は 77 のパリ全域プロジェクトと、547 の地区プロジェクトが候補として投票対象となった。

オンラインおよびパリ市内の 120 カ所での実際の投票箱による市民投票では、2015 年には約 67,000 人の市民が参加し、188 のプロジェクトが採択された。

プロジェクトは「自転車道路の設置」（800 万€）、「生物多様性向上のためのガーデンウォール設置」（40 カ所、200 万€）、「教育庭園導入」（663 の幼稚園・小学校、100 万€）、「ボンヌ・ヌーヴェル大通りにアート設置」（1.5 万€）、等多様である。これら採択されたプロジェクトの

概要、予算、進捗状況等は、特設サイトでモニタリングすることが出来る。

図表 2 budget participatif (参加型予算特設サイト)



出典：https://budgetparticipatif.paris.fr/bp/ に加筆

## フィードバック及び今後の展開

パリ市では、市民にとっては、提示されたプロジェクトから実際に選択することが難しかったのではないかと考えている。

市民からの提案のうち十分に精査され組み立てられたプロジェクトは少なく、市の部局がフィージビリティスタディを行うことは困難であったとしている。

さらに、プロジェクト提案の 2/3 が団体ではなく個人によるものであり、プロセスが個人化され過ぎているとも評価している。

なお、プロジェクトの 25%が住環境、15%が環境、13%が交通と移動関連と、大多数が公共空間に関連する提案であった。

これらの状況を踏まえて、パリ市では参加型予算の仕組みの改善を検討中である。具体的には、プロジェクトの品質を改善するための教育法の強化や、テーマの多様性の確保等の改善方策、市と市民とのプロジェクトの共同構築のための時間を含めた新規スケジュールによるプロセスの設計、投票段階でより絞ったプロジェクトの提示、採択されたプロジェクトの実施と具体的な成果についての伝達等を想定している。

参考文献

- [1] 山口まみ「Madame la Maire, j'ai une idée! —パリの市民参加型予算—」『日経研月報』2015 年 6 月号、(一財)日本経済研究所
- [2] Mairie de Paris “Participatory Budget – City of Paris” the 5th of November 2015
- [3] “Madame la Maire, j'ai une idée!” <https://idee.paris.fr/>
- [4] “budget participatif” <https://budgetparticipatif.paris.fr/bp/>